

進路本番！待たなし

中間考査が終わり、最終学年も折り返し点を過ぎました。今週末から始まる就職試験を皮切りに、試験が始まります。いよいよ進路本番です。以前に書きましたが、長い人生の中で何度か訪れる「勝負の時」です。より納得できる将来のために、今できることはすべてやり切ってください。

進路について、これまで書いてきたことと重複する内容もあますが、気の付いたこと、気を付けてほしいことを書いておきます。

一、進路の決まった人へ

■「手続き」忘れていませんか？

AO 入試等で「内定（出願資格）」をもらっている人は正式な出願をしなければいけません。その際には調査書が必要ですので、担任の先生に発行してもらいましょう（「調査書発行願（桃色用紙）」を担任に提出する）。その際に期日に注意すること。「AO 入試受験届」（白い用紙）の提出のまだの人でも忘れず記入提出してください。

■報告とお礼を

進路を決めることができたのはあなた自身の努力の成果ですが、志望動機の添削や面接練習、講習や個別指導などでいろいろな人の助けを受けていると思います。お世話になった人への報告とお礼を忘れないようにしましょう！！

■受験レポートを提出してください！！

AO・指定校で合格した人は「受験レポート」を記入して提出してください。用紙（A3の大きなプリント）は進路指導室にあるので取りに来てください。後輩のために協力してください！！

■少しでも、自分を高めよう

進路が決まった皆さんこそ「受験に縛られずに伸び伸びと勉強できる」のです。いろいろな学問分野の授業が受けられるのは今が最後ですよ。授業を通じて、知識やものの見方をさらに学んで、少し

でも教養を広げ自分を高めてください。

■卒業できなければ全てが台無しに・・・

以前にも書きましたが、折角進路が決まっても、卒業できなければすべてが白紙に戻ります。8月の追認考査で多くの人が不認定科目を取り消すことができました。良く頑張ったと思います。けれども、1学期に欠点科目を多数保有し、卒業が危ぶまれる人が少なからず居ます。油断は禁物です。

■「進路実現は団体戦」だから・・・

「進路実現は団体戦」と言われます。「一人ひとりの目標は異なるが、みんなが向かっている」という雰囲気大切だという意味です。既に進路が決まった皆さんは、1学期の皆が熱心に勉強や進路の事に取り組む雰囲気の中で進路を決めることができました。だから、これからの人も同じような雰囲気で勉強できるようにしてあげてください。授業の雰囲気を壊さないように気をつけてください。遅刻したり、欠席したり、頭髪等の身だしなみが乱れたり・・・などのいい加減な学校生活も雰囲気壊します。遊びの話などで盛り上がることもあるでしょうが、周囲にまだ頑張っている仲間が居ることを気遣いましょう。



■指定校・AO・公募制推薦で大学短大の合格が決まっている人

すべての調査書は1学期末の成績で発行していますが、3月になってから、卒業時の調査書を求める学校もあります。先方が新しい調査書を見たときに、あなた自身への信用と学校への信頼が崩れないように、成績を保つ努力をしてください。

（*3学期以降の調査書は2学期末までの状況です）

二、これから受験する人へ

■入試は落ちる事も多い。落胆するな。

既に大学のAO入試で合格できなかった人がいると思います。厳しい事を言うようですが「準備不足」だったのではないかと思います。まず、模試などの結果を活用し、自分の現状を分析し素直に受け入れましょう。そこから新たなスタートです。落

胆している暇はありません。また、皆さんの多くは「公募で決めたい」と思っているでしょう。けれども、昨年の本校3年生の公募制推薦での受験者のべ280人のうち、合格者はのべ44人、合格率は16%でした。なぜ合格率がこの程度なのは次のような理由が考えられます。まず、準備不足の状態を受験した人が多かったこと。次に、公募制推薦入試は2科目や1科目で受験できるので、合格ラインの得点率が高くなること。さらに、受験生はみんな同じ事を考えるので志願者が増え、競争倍率が上がったこと。また、大学によっては公募制推薦での合格者数を絞っているところもあります。公募推薦入試はお得とは言いきれないのです。

■今が頑張りどころ、ガマンもしよう。

中間考査が終わりホッとしている人もあるかも知れませんが、そんな暇はありません。すぐに受験勉強のリズムに戻りましょう。



模試が返却されました。第一志望の学校の判定においては、多くの人に「D」や「E」がついています。しかし、あまり判定に振り回されないようにしましょう。「D」判定の合格可能性は3割程度といわれます。可能性があるのでも、目標を変えずにさらに勉強を積み重ねて前進してください。なぜなら、現在「A」がついている人は他校に移っていくことが考えられます。また、「E」判定がついている人も直ちに、諦める必要はありません。ただし、現実をみて「押さえの学校」も視野に入れながら進んでください。

今やるべきことは、志望校の出題傾向をよく調べて、模試の「設問別成績」を参考に、不得意な分野の底上げをすることです。出題されやすい分野が不得意分野なら、そこを集中的にやるのです。

受験勉強というものは、やればやるほど、自分のできないところが次々と明らかになり、不安になることがあるものです。でも、一方で「この問題は解けるぞ」「ここはわかっている」など手ごたえも感じられるようになってきます。力がついてきた証です。他には代え難い喜びではないでしょう

か。やりたい事はほかにもあるでしょうが、今の時期はすっぱり諦めて、勉強に振り向けましょう。長くても数か月～半年ほどのことです。

■授業は大切にしよう！内職は身につかない。

受験科目以外の授業中に内職をする人が見受けられるようになりました。「入試が近づく一方に思うように勉強が進んでいない・・・」と



いう焦りの気持ちは分ります。しかし、合理的に考えれば「内職」は中途半端なものになり得策とは言えません。授業は担当者のペースで進み、ノートやプリントも記入しなければいけないので、内職は意外と中断させられ、思うように集中できません。また、授業に集中していないので理解ができておらず、テスト勉強に余計な時間がかかります。12月、に期末考査、1月末に学年末考査があります。考査中であろうと受験勉強は継続した方が良く決まっています。平素から授業に集中していれば、考査期間中であっても受験勉強と両立できます。

■一般入試を視野に入れ、

受験科目をあまり絞るな！

「受験科目は少ない方が勉強の負担が少ないし得意科目だけで勝負できる」と考えがちです。しかし、以前にも書いたとおり、リスクも大きい事を知ってください。また、公募制推薦で合格を勝ち取れなかった場合は、一般入試に挑戦することになります。ここでは多くの場合3科目が課せられます。合格率の低さを考えると、公募制はあくまでも通過点と捉え、一般入試をめざして3科目の勉強を続けましょう。いま、受験科目数を減らそうと思っている人はもう一度考え直して欲しいのです。

■決して止まらず、最後まで粘ろう！

運動部の人が毎日ボールを触るように、受験勉強も毎日パターンをきめてルーティーンワークのように続けてください。また、入試後の合格発表までの期間も次の入試に向けて勉強しない日を作らない事が大事です。

■自習室を利用しよう！

ずっと継続して自習室で勉強している人たちがいます。早朝や放課後、勉強に没頭できますよ。

■受験だからと言っても・・・

ただし、受験勉強があるからと言う理由で、授業をいい加減に受けたり、自宅で勉強すると言って遅刻や欠席をしたりしているようでは本末転倒です。学校に通い「朝～昼型」の生活をすることがあなたを勝利に導きます。皆さんの先輩達で、本当に成功した人はきちんと登校し規則正しい生活を続けていた人がほとんどです。学校に通い授業をきちんと受ける程度の余裕がないと受験は乗り切れないものだとっておきます。



いろいろな書類と出願時の注意

0、「募集要項」を取り寄せること

多くの場合紙ベースの提出書類があります。

*進路指導室前の廊下に置いてある要項は持ち帰っても構わない。

1、「募集要項」をよく読むこと

次の2～8についてしっかり確認して、書類をそろえる。自分に都合の良い判断をしがちなので、不安な場合は保護者や担任の先生に見てもらおう。

2、出願の期日 消印有効か？必着か？

余裕を持って書類を整えること。

3、インターネット出願の場合

自宅にインターネット出願の環境の無い場合は、担任の先生に相談すること。

*インターネット出願の場合も調査書・推薦書は郵送です。以下の注意をよく読み期日に注意して出願すること。

4、願書

必ず自分で丁寧に書く。鉛筆書き、修正液は不可。募集要項に記入例がある場合があるので、必ず確認する。

*写真は一人あたり四枚（4cm×3cm）あり、皆

に配布した。大切の保管しておく事。もし、四枚以上必要な場合やサイズの異なる場合（5cm×4cmなど）は早めに担任の先生へ申し出る。週末に申し込み、週明けの月か火に写真屋さんへ届けてもらえる（予定）。

5、調査書（AO・推薦・一般で必要）

学校が校長先生の名前で発行するもの。

①「調査書発行願い（桃色の用紙）」をもらい、必要事項を記入する。

*学校名、学部・学科・専攻・コース名など正確に書く。

② 出願の1週間前までに担任に提出する。

*調査書は即日発行できないので余裕を持たせる。

6、推薦書（指定校・公募制推薦入試で必要）

学校が校長先生の名前で発行するもの。

「調査書発行願い」と一緒に担任の先生に用紙を渡して作成してもらう。調査書より時間がかかる場合が多いので、期日に注意する。

*作成された「調査書・推薦書」は封筒に入れて厳封（「緘」印）されている



ので、開封すると無効になります。不要になれば返却する。

*インターネット出願の場合、調査書・推薦書のみを郵送するが、担任の先生から受け取った封筒を別の封筒に入れて、住所、宛名を書き、郵便局に行き簡易書留で郵送すること。

7、志望理由書・自己推薦書（推薦・AO入試の場合）

自分で丁寧に書く（基本はボールペン）。

質問などに的確に答えること。不安な場合は下書きをして担任の先生に見てもらおう。

8、受験料

銀行・郵便局・コンビニで受験料を振り込み、その納付書を願書に添付する必要がある。振込みができるのは、銀行は3時まで、郵便局は4時までなので注意！ 前もって準備しておくこと。

9、総合選抜型（AO）入試の場合

①エントリーする場合は、担任の先生に申し出て「AO入試受験届」に必要事項を記入する。

*AO入試は原則専願なので、この用紙が「合格すれば変更しません」という誓約書代わりになります。従って、保護者の印鑑が必要です。

②出願許可がもらえたら、正式な出願の際に調査書が必要になる。「5、調査書」の項を参照。

10、郵送時

封筒に入れてのり付けする前に、もう一度中身を確認する。特に複数校に出願する場合は宛先の異なる調査書を入れないように！

11、受験報告書

面接や作文を伴う入試の場合は、その内容を記入して必ず報告してください。皆さんの先輩への貴重な資料になります。



・受験料の振り込み、出願書類の送付などのために授業を抜けない事。そのための遅刻や欠席、早退は欠席・欠課になる（公欠にならない）。期日ギリギリにならないようにすること！

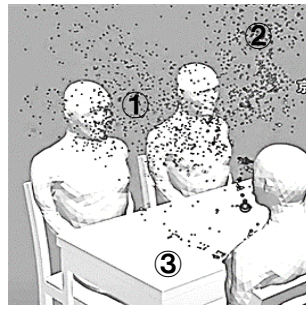
マスクをしよう！コロナ対策

3年生の皆さんにとって、コロナの影響は大きく次の3つと思われます。これらは、絶対に避けたいことです。

- (1) 発症したり、無症状でも陽性の判定が出たりした場合に、入試や就職の試験や面接を受けられなくなる事があること。
- (2) (1) により休校措置が取られた場合、入試範囲の授業が遅れたり、進学講習その他の進路指導できなくなったりすること。
- (3) 考査・追認考査・卒業式などの日程が影響を受けること。卒業式ができなくなる場合も考えられること。

だから、私たちのなかでコロナ感染が広がらないようにできるだけ事をしましょう。

右上の図は、最新のコンピュータ「富岳」を用いて、マスクなしで対面会話しているときの飛沫の拡散の様子をシミュレーションした画像です。大きな飛沫はぼたぼたとテーブルの上に落下してい



ます。「マイクロ飛沫」または「エアロゾル」と呼ばれる微小な飛沫は、対面している人の顔面を直撃しています。また、下の図は横向き会話の場合です。対面より飛沫がかかっている様子がよくわかります。話者が感染者の場合、大きな飛沫にも微小な飛沫にもウイルス

が含まれています。飛沫を防ぐことが大切です。

①感染者の飛沫の直撃を受けると、呼吸とともに飛沫を吸い込むので感染の可能性があります。

ウイルス粒子はマスクを通過しますが、飛沫の大部分はマスクで止まります。対面対話時に双方がマスクを着用するのは極めて有効です。

②感染者から空中に飛散したマイクロ飛沫は、空气中を拡散しながら数時間空中を漂います。時間とともに感染力が低下するといわれていますが、これらの飛沫から感染する可能性を指摘する専門家もいます。特に密室の場合は感染リスクが高まります。換気によって空気を入れ替えると飛沫濃度が低くなりリスクを下がります。この時空気の出口と入口を作れば、きわめて有効です。

③机の上に落ちた飛沫も時間とともに感染力が低下するといわれます。しかし感染力の十分な飛沫が手につく事もあります。手についただけでは感染しません。しかしウイルスを含む飛沫の付いた手で、口や目などの粘膜に触れると、そこから感染する可能性があります。食事前や帰宅時を中心に小まめな手洗いが有効です。

心掛けよう！！

◇マスク着用(特に対面会話、休み時間、昼食時)

◇換気(対角線上で窓を半分程度開ける)

◇手洗い(特に食事前)